

マーケットの動き（2020年2月3日～2月7日）

米国国債、ドイツ国債の金利は、前週末比で上昇しました（債券価格は下落）。
市場の米国利下げ織り込みに対し過度であるとの見方から徐々に米国金利が反発しましたが、足元で新型コロナウイルスの感染拡大の見通しが懸念され、金利上昇の勢いは週後半にかけ弱まりました。

投資環境見通し（2020年2月）

米国、欧州ともに長期金利はレンジ内での動き

米国：米中関係に対する懸念の後退から長期金利は上昇圧力がかかりやすい状況ですが、FRBが現行の金融政策を継続するとみられることに加え、新型コロナウイルスの感染拡大を巡る先行き不透明感も残ることから、長期金利は当面レンジ内で推移するとみています。

欧州：欧州周辺国の一部に利上げの動きがみられる一方、景気や物価見通しからECB内での金融緩和縮小の議論は時期尚早とみられます。ドイツ長期金利は米国と同様に、当面はレンジ内で推移するとみています。

	2月7日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.58	0.06	▲0.25	▲0.10	▲1.07
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	477.87	0.39%	1.86%	4.21%	6.82%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

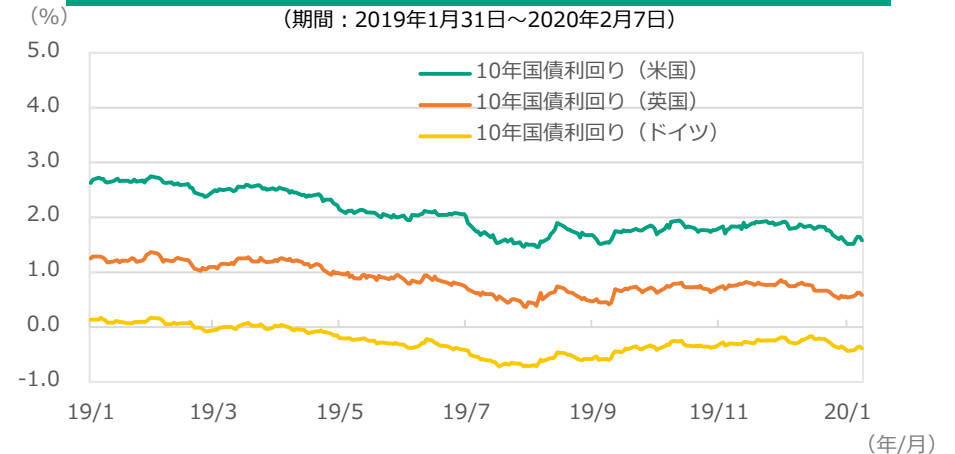
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202002_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2019年1月31日～2020年2月7日）



FTSE世界国債指数の推移

（期間：2019年1月31日～2020年2月7日）



※2019年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成